

論文審査の要旨

報告番号	理工研 第 499号	氏名	ボウ・コーザー
審査委員	主査	木方十根	
	副査	柴田晃宏	曾我和弘
		鷹野 敦	
<p>学位論文題目 Built Environment Education – An Investigation of Interdisciplinary Knowledge (構築環境の教育に向けた考察：学際的な知識として)</p> <p>審査要旨</p> <p>ボウ・コーザー氏より提出された学位論文及び論文目録等をもとに学位論文審査を実施した。本論文は構築環境に関する学際的な教育に必要な知識の型を考察したもので、全八章の本論で構成されている。第一章では、建築・都市計画等の専門教育、芸術教育、および環境教育との関連から、構築環境教育の位置付けを論じたうえで、構築環境教育には構築環境に関する専門教育に通じる多くの概念が含まれるが、本研究では、より広く一般社会の構築環境についての意識を高めるための教育について論じるという研究目的を提示した。</p> <p>第二章では、各国政府による構築環境教育の支援に関する政策的取り組みについて論じた。ここでは特にEU諸国の取り組みについて焦点を当てた。その理由は、政府の政策的支援の内容が明確に文書化されているためである。各政府は構築環境教育を支援することによって、政策的に推進しようとする価値概念を明らかにしている。EU諸国各政府の取り組みの理解を通じて、持続可能な構築環境の創造に関する学際的な協力の必要性を明示するとともに、この取り組みに寄与すべき知識のあり方を提示した。</p> <p>第三章では、著者の理念的立場と研究方法、およびそれらを選択する理由について説明した。</p> <p>第四章では、本研究で開発する視覚的モデル（BECKチャート）の目的について論じた。構築環境に関する学術的情報を整理するための複数のモデルに関する比較検討を行うとともに、モデルの設計上の考慮事項、およびこれらについての概念的根拠を示した。</p> <p>第五章では、開発されたBECKチャートを応用し、アメリカ建築家協会の後援による学齢期向け建築教育プログラムの内容を分析した。これにより現行の建築教育プログラムを本研究が指定する構築環境教育へと文脈づける方法を示すとともに、構築環境教育を提供する際の専門組織の役割を明らかにした。</p> <p>第六章では、生涯教育としての構築環境教育のあり方の考察として、同じくBECKチャートを応用し、構築環境教育の現場となる公共空間（史跡公園）のサイン表示の分析を行った。これによって公共空間がいかにか生涯学習としての構築環境教育を支援するか、その現状と課題について論じた。</p> <p>第七章では、BECKチャートが一般に利用しやすいかを判断するため行われた二つの検証について述べた。一つは工学部内の学生グループを対象とした実験であり、もう一つはオンラインによる実験である。これらにより構築環境に関する専門家以外の者がBECKチャートを理解し応用できるかを検証した。</p> <p>第八章は、以上を総合した結論であり、本研究で開発された視覚モデルが、構築環境教育の場面において学際的な知識の型を明示するうえで有効な役割を果たすことを結論付けた。</p> <p>以上、本論文は構築環境教育という学際分野の重要性を指し、今後の研究教育の発展に展望を拓く有用な成果と認められる。よって審査委員会は博士（工学）の学位論文として合格と判定した。</p>			